

議会を傍聴して

ボランティア連絡協議会会長

富田文江

3月15日ボランティア

連絡協議会役員で議会を傍聴しました。議員さんの質疑を拝聴する事久しぶりでした。緊張な面持ちで傍聴席に入りました。多勢の傍聴者、厳粛な雰囲気の中一般質問に入り、7名の議員9問に対し、町長、教育長、担当課長の答弁している様子を聴き、町に対する真摯な思いに深く感動しました。我々町民一丸で町づくりを協力していこうと言う気持ちになりました。皆さんも傍聴しては如何でしょうか。

被災地視察報告No.2



被災者の婦人が語ってくれた

両親探して見たもの「地獄絵」だった

東日本大震災から早くも一年が過ぎました。テレビなどで特集番組が組まれ現地の状況が伝えられています。なかなか進まない復興、人々の苦悩の姿を見るたびに、昨秋議員の被災地視察の折りに語ってくれた震災直後の被災婦人の言葉が脳裏から消えず、町民の皆さんにお伝えすることが被災地支援につながると思い二回目の報告をさせていただきます。

視察は岩手県釜石市から宮

城県松島町の海岸線を通るコースで行われました。最後の視察地松島で遊覧船に乗ったときのこと。ガイドをしながらみやげ物を買う中年の婦人が語ってくれました。

津波のときいつものようにこの松島で働いていた。松島は湾に点在する島々のおかげで、海岸沿いの家々が浸水する程度の津波被害は比較的軽度●婦人の住まいは東松島町にあり働く船着場との距離は10数キロ。すぐに家路が心配になり家路に急いだ。水を引ききらない道路は瓦礫が散乱し思うように歩けない。5、6時間かかって暗がりの家までたどり着いたそこには何もなかった●両親は家とは心配するが暗闇の中でまったくわからない。そのとき通りかかりの人が被災を免れた高台のお寺の本堂に皆集まっているから。言われるままに行けば本堂は入れきれないほど人でいっぱい。暗闇のお堂に何人いるかもわからない。濡れた洋服のまま身動きもできない「人いきれい」のするなかに、立ったままの姿勢で一晩を明かす。この一夜がどれほど長く感じたことか●夜明けを待つ両親探して。遺体安置所めぐり三日目で探して当てるが、火葬が追いつかないので土葬のとこと。それでは忍びないと探し回り山形県の町が引き受けてくれて火葬した●両親探して河口周辺で見たのは、瓦礫とともに浮かぶ何体もの死体、赤ちゃんにお乳を飲ませたままの若いお母さん親子の遺体も見ました。それはまさに地獄絵を見ているようでした●そして命をなげうた人間同士、ともに助け合って頑張つて生きてゆこうと誓いつつていながら、何人もの知人が自ら命を絶つていった。

被災地の人たちの苦悩はいろいろな形で続いています。被災を免れた私たちに何ができるかを問いながらペンを走らせました。

〔長岡敬一 記〕

編集後記

東日本大震災は、3月11日発生から1年を迎えた。全国各地で追悼行事が開かれ地震発生の日午後2時46分一斉に黙とう。列島は悲しみと鎮魂の祈りに包まれた。いまだ行方不明者は3155人おり、被災地はがれきの山で復興の道のりは多くの困難があると思われる。この記憶を忘れずに、

この記憶を忘れずに、

〔佐俣勝彦 記〕

表紙

秋畑小学校
最後の入学式

町でも防災対策に力を注ぐ必要があります。

平成24年第1回定例会も順調に進められ議案も大多数が全員一致で可決され新年度もスタートいたします。

今後も町民の皆さまから信頼される議会活動につとめてまいります。

議会だより編集委員

- 委員長 黛 哲夫
- 副委員長 長岡 敬一
- 委員 長谷川 儀平
- 委員 佐俣 勝彦
- 委員 富岡 朝男
- 委員 柳澤 清次
- 委員 江原 榮和

みなさんのご意見、ご感想をお寄せください。

編集委員会風景

